

平成26年度第2回西宮市協働事業提案審査会 会議録(要約)

日時：平成26年8月12日(火)午前10時から正午

場所：西宮市役所 東館8階大ホール

出席者：【委員】直田 春夫(会長)、黒木 順子、川東 美千代、
石井 道信、染矢 洋

【事務局】市民協働推進課長 三村 嘉伸、
同係長 安座間 昌三、同主事 後藤 理恵、同主事 水間 由依

開会

市民協働推進課長より挨拶の後、委員紹介があった。

その後、プレゼンテーションの方法について事務局から説明。

事務局

1 提案につき15分を予定。事務局説明・提案者から補足説明PRで約5分、委員からの質疑に約10分。提案説明が終了すれば、退席は自由。会長進行で開始。

第1部 プレゼンテーション

1 番目の事業「まちヨミin西宮」について

会長

事務局から説明を。

事務局から事業概要の説明。

では提案者から、事業説明、PRをお願いしたい。

提案者から事業の説明。

では、各委員からの質問をお願いする。

委員

広島で実施したとのことだが、そのときに使った本とそのときの具体的な流れをお聞きしたい。

提案者

神田昌典氏の『2022年 これから10年活躍できる人の条件』という本を使用した。市民と一緒に未来のまちづくりについて考えるという読書会を開催した。グループワークをして最終的には、古民家の再生や、小規模なまちづくりのためのNPOを立ち上げることとなった。

委員

読書会という方法をとる必要があるのか。

提案者

読書会は、考えるきっかけ作りのための一つのツールである。

委員

何人くらいの参加があったのか。

提案者

30人程度。

委員

資料に添付されているリード・フォー・アクションの、明石でのまちヨミは提案者とは関係があるのか？また、参加費をとっていたり、とらなかつたりするが、リード・フォー・アクションに上納金などが必要なのか。

提案者

明石でのまちヨミはスタッフとして参加している。リード・フォー・アクションに対しての上納金などは特に必要ではない。リード・フォー・アクションにファシリテーターとして認定された人たちが自分たちで活動するといった形態をとっている。

委員

明石での参加者は部屋の収容人数を上回っているようだが安全面等どのように考えているのか。

提案者

数字が誤っている。実際の参加者はもっと少ない。

委員

本を決めるときには、何かの要請があつて決めるのか？

提案者

あくまで、ファシリテーターが決定している。

委員

講師謝金は、誰にどのような形で支払われるのか。

提案者

今回の内容は、働く女性をテーマにする予定にしており、テーマに詳しい人物に講師をお願いする予定。

委員

収支予算書の予算が変更になった根拠をお聞きしたい。また、3年目の事業の展開と、予算の関係はどのようになっているのか。

提案者

収支予算書は、提出したものよりもより詳しいものをとの要請を受けたため変更した。3年目は小規模な読書会を定期的で開催しようと考えており、予算についても、小規模な読書会を開催するための金額を記載している。

会長

時間が来たので、これまで。読書会でまちづくりというのは新しい考えだが、人が集まる見込みはあるか。

提案者

今現在、西宮市でもセミナーなどを開催しており、そこで呼びかけていく予定である。

2 番目の事業「第5回いっぽにほ～心を結ぼう～事業」について

会長

それでは、事務局から説明を。

事務局から事業概要の説明。

提案者から PR をお願いしたい。

提案者より PR あり。

では、委員から質問をお願いしたい。

委員

市民の防災意識を高めていくことと、コンサートがどうつながるのか。昨年度の事業に対して評価をしたが、評価内容を知っているか？

提案者

概要のみ聞いている。

委員

昨年の事業を採択するに当たって、審査員から、行政と市民団体との役割分担をして欲しいと付帯意見をつけたが、役割分担をされているようには見えなかった。担当課からも、「協議できなかった」や、「防災啓発が十分にできなかった」といった反省が事業実施後の評価にあがってきている。あくまでコンサートがメインになっていて、市の防災啓発用ブースも小さい。もっと事前に詳細に計画を立てることはできなかったのか。

提案者

昨年度は、初めて協働して行うことになり勝手がつかめていないところがあった。指摘のあったブースについても、会場で担当課とともに位置を確認し、適切と思われたため位置を決定した。当日、来場者の動線がブースを避けるような形になってしまったため、今回は位置をより目立つ位置に変更する予定である。

委員

昨年の提案事業の目的は、「西宮市民が防災意識を高めること」としていたが、このコンサートで目的が達成されるだろうか。

提案者

昨年以前の事業の目的には、被災地支援のみがあり、防災が加わったのは昨年からである。実行委員としては、講演会を行ったことや市のブースを置いたことでイベントの主旨が大きく変わったと認識している。

委員

パネル展示はしていたのか。

提案者

展示場所を用意した。市の担当者が防災マップを掲示したり、グッズを配布したりしていた。

委員

多くの人を集めてイベントをすることは良いことと思う。だが、防災がメインのイベントだということについての周知はどのようにしているのか。参加者は何人で、イベント参加者に対してはどのように周知しているのか。しっかり周知ができなければ、市と協働する意味がない。その点については、今回周知を徹底できるのか。

提案者

イベント参加者はステージが95人、ブースが32人。毎年、イベント前の出演者・出店者会議で、今年度のイベント概要や、目的を説明している。昨年に関しては西宮市の協働事業として行うことになったということと、防災啓発目的のイベントになったため講演会や、市の啓発ブースができるといったことしか説明していなかった。今年は、昨年の反省を活かして実行委員でも防災啓発を行っていけるよう、幼児向けの劇をすることを計画している。

委員

コンサートと、防災は結びつきが感じられない。替え歌で防災ソングを入れるなどするとかしないと、コンサートそのものが防災啓発に結びつかないのでは。400人の人が集まるイベントは、やはりすごいことだが、もどかしい気持ちになる。

委員

協働事業として提案したからには、本来の目的にあった事業でなければならない。提案者はその意識が薄いのではないか。

委員

東日本大震災支援とのことですが、なにか寄付をしたりしているのか。

提案者

昨年の審査会で、助成金をもらって寄付をするのはおかしいとの指摘があったため、実行委員としては、自主的に寄付をする形にし、ブース出店者たちからは被災地支援目的のブースを1つ出すこととなった。

会長

時間が来たのでこれまで、結果は後日事務局からお知らせする。以上の2つでプレゼンテーションを終了する。

第2部 審査

会長

では1番目の事業「まちヨミ i n西宮」について。採点結果は不採択となるが、各委員から意見をお伺いしたい。

委員

- ・事業が協働に馴染まない。
- ・事業自体の内容が、不明瞭である。
- ・テーマとしては、読書でまちづくりというのは面白い事業。行政が入り、本の選定などに口を出すようになると、つまらない事業になってしまうのではないか。
- ・独自事業として発展することを期待する。

会長

では、2番目の事業「第5回いっぽにほ～心を結ぼう～事業」について、意見をお伺いしたい。

委員

- ・行政の側も、事業を楽しんでアイデアを出していけば面白い事業になる。
- ・もう少し企画を練り直し、参加者が家に帰ってから防災のことをしっかり意識できるような企画をたててほしい。
- ・行政側と、提案者側とが密に打ち合わせをして企画をし、しっかりした啓発ができる事業になるように期待する。
- ・採択に当たっては、前年の事業に対する評価委員からの意見も今回の審査員からの意見も文書にして伝えるように。

会長

それでは、審査結果は「まちヨミ i n西宮」は不採択、「第5回いっぽにほ～心を結ぼう～事業」は採択とします。それぞれの理由については今の議論をもとに事務局でとりまとめていただき、各委員にチェックをお願いした後、市に報告書を提出する。

以上で審査会を終了する。